

<新世代育成委員長会議報告>

結城委員長

新世代育成委員長会議に出席してまいりました。青少年奉仕委員会が新世代育成委員会に変わり、対象が0歳から30歳と幅広くなりました。インターアクト、ローターアクト、青少年交換が一緒になって、少しはやりやすくなるかという感じです。下記、ディスカッションの内容をご報告します。

- ・ローターアクトは現在6クラブで、休会が2クラブ（当クラブと川崎北RC）。
- ・ローターアクトの難しさは、18歳から30歳までで第一線で働いている人が多いので、月2回夜会合を開くのは難しい。
- ・横浜南クラブがうまくいっているのは、関東学院大学で、インターアクトからローターアクトに移行していくケースが多い。
- ・当クラブの場合、桐光学園は大学がバラバラになるので、大学生になってローターアクトに入るのは難しい。
- ・インターアクトの新しいクラブをつくるにはどうすればいいか→公立学校は、校長が変わると考え方も変わるので難しい。私立の学校にお願いしてつくればどうか。
- ・インターアクトの子どもたちにも得点を与えたほうがいいのではないかと→交換留学生に即、してもらうのは難しい。
- ・当クラブは、青少年交換委員会は3年委員になっているが、そうでないクラブがあり、子どもたちの面倒がみにくいので、3年委員にしたほうがいいのではないかと意見があった。

以上ですが、ローターアクトの運営は難しく、現在、会員数は57名しかいません。当クラブもローターアクトについて考えなければならないのではないかと思います。

<会員増強A組報告>

安藤亨会員

Aチームは2名候補者があり、うち1名は昨日入会申込書をいただき、所定の手続きを経て入会の運びになります。もう1名は少し時間がかかるようですが、今年中には入会していただけるよう進めています。

本日のプログラム

<雑誌委員会報告>

岡村委員長

毎月配られている『ロータリーの友』は、ロータリーは国内も含め、世界中でどのような活動をしているか、また、ロータリアンはどうあるべきかを教えてくれる、我々にとっては貴重な情報誌です。ロータリーが生まれて100年以上繁栄し続け、世界中の多くの人々が賛同してきた要因が記されていると思います。

興味のあるところだけを読んだり、全体的になんとか読んでいる方が多いと思いますが、次号を楽しみにしている人は、当クラブにはいないように思われます。私もそうです。でも、よく見ると、大変良いことが書かれているのです。

例えば8月号で、今年度RIボイド会長は、<強いクラブ>という内容のメッセージを書かれておられます。強いクラブとは、友情、親睦、それに有意義な奉仕をもたらしているクラブである、と記しています。そして、会員増強を強調しています。尊厳と品格をもって新しい会員をあなたのクラブへ誘ってください。ロータリーの構築に極めて重要なことは、継続されていくことです。今後何十年経っても、親しくつき合えるような、同じ考えをもった友人を得ることです。ものの例えに、<川の水>というのがあります。説明するまでもありませんが、マンネリになってはいけないということです。清々しい空気、新鮮な血液が健康に良いのと同じだと思います。

ボイド会長はいろいろ述べておられますが、要約しますと、ロータリーは楽しみでなければなりません。とくに会員増強は、「強いクラブが強いロータリーをつくる」源であり、強いクラブなくしては、どのような会員募集や退会防止に関する努力も、ロータリーが成長する助けにはなりません。強いクラブがあってこそロータリーは繁栄し、さらなる100年間の人類への奉仕を続けられます、と示しております。

我が百合丘ロータリークラブも、強いクラブでありたいと願っております。

なお、9月号の7頁に掲載されていますが、九谷焼の人間国宝である徳田八十吉さん(小松RCの会員)が、